

現 實 證 明 書

死亡者に就いて	所屬部隊名	遺精號	本籍地	遺族の住所	固有な氏名
年 集 級	種 役	兵 隊			
死亡年月日時刻	昭和二十年一月二日 午前十一時三十分	死亡場所	比叻廣ル島北サニエ		
死亡原因	○戦死	又は病名			
発病年月日		及現病事由			
戦病死		死体の處置			
その他		備考事項			

頭部貫通銃創

死亡者と の關係	右現證證明致します	現住所	所屬部隊	官等氏名
			船泊士兵第二五聯隊第三分隊	陸軍佐長
遺骨遺留品の 有無及び無しの 場合の理由		保管場所		



昭和二十二年

月

日

第

號

昭和二十二年

月

日

調製

省製調

死亡者調査表

整理番		所屬部隊		固有名		百師砲兵隊		通稱		昭和二十二年		地方		世		部		製調	
年集		昭		10		役		兵		昭		砲		官		死		時	
本		薪		地		※		※		※		※		※		※		※	
留守		現住		所		※		※		※		※		※		※		※	
擔當者		履柄氏名		※		※		※		※		※		※		※		※	
死亡年月日時		※		30年		7月		2日		10時		0分		※		死		由	
死亡原因		※		※		※		※		※		※		※		死		由	
死亡直前の職務		※		※		※		※		※		※		※		死		由	
資料入手の経路		※		※		※		※		※		※		※		死		由	
現住所		※		※		※		※		※		※		※		死		由	
見所		※		※		※		※		※		※		※		死		由	
決		※		※		※		※		※		※		※		死		由	

○本表中捺印の欄以外は世帯部にて記入すること

○記載上の注意並に履歴欄は裏面にあり（記載上の注意をよく読んでから記入の事）

51-10

おぼえがき資料通報

軍 邦

索引隊

担任

地区

寫

A. 資料提供者 B. 未 帰 還 者 資 料

詳細な本人との関係	詳細な状態	場所	時期	所属部隊(職域又は住所)	届有無 後継(現召)	経緯
船舶機動輸送 第一中隊戦友	乗機から昭和三十一年一月一日北サシ フェルナントに向い一月二日ポリ ナオ岬南西で空襲をうけ舟 艇海没の時戦死したと思いま す。ポリナオには上陸していません	リン街ポリナオ岬 乙丙 区	昭和二十年一月二日 乙丙 分	船舶機動中 甲 乙	現 兵種(職域) 船 階級(職名)	通信調査
所属 現住 氏名 本籍	甲 乙 丙	甲 乙 丙	死	宅守留 本籍 弟	氏名 年 月 日生 甲 乙	時期 4/1 29 官公署 民生局厚生部世話課 調製
階級(職名) 兵長 氏名 本籍	甲 乙 丙	甲 乙 丙	摘要 乗機「跋竜」	甲 乙	甲 乙	

ポリナオ岬で死没と認定済み 17% (5)ス

索引 有 無 済

戦 ム 中 収

番号

昭和33年度登録第1303号(四)

現認證明書

派遣 威第一六五部隊本部 隊勤務

陸軍上等兵

右者昭和二十年一月三日 カガヤン州 陸軍病院に於て

トラリヤニ依り戦死(戦病死)セルコトヲ現

認ス

昭和二十二年九月二七日

現認者 北島旅 第一六五部隊本部附隊 陸軍 階級 軍曹

現任所

氏名

[Redacted signature area]

（第 一 章）

昭和二十二年

年五月
地方世話部
日調製
者製調

27-10

◎本表中捺印の欄以外は此語部にて記入すること
◎記載上の注意並に展覧欄は裏面にあり（記載上の注意をよく讀んでから記入の事）

現認證明書

本籍地

現住所 今右

所屬部隊 マミラ航空廠 一五三二部隊

官氏名 陸軍一第各 (死亡前)

死亡場所 比島ルン多南サンフェルナンド附近

死亡區分 戦死

死亡日時 昭和二十二年九月九時 指定

死亡傷(病)名 腹部(腸)通鏡創 (三六三)

留守擔當者住所

續柄氏名

妻

右證明する

昭和二十二年 三月 二十一日

現認者住所

元所屬官氏名

一五三二部隊陸軍部長

(7)

7-11

死亡者調查表

昭和二十二年十月二十三日開製

一母隨風

[illegible]

○本表中央印の欄以外は第一世諸師にて記入すること
○記号上の注意並に履置欄は変置にあり（記号上の注意をよく読んでから記入の事）
○不備事項を判明しあるものは各姓にて崇書すること

水階

所屬部隊

昭和十一年徵集水戸國史館より一筆

比島派遣軍司令部、新隊

死亡年月日時分

昭和二十年一月六日午前九時

死亡二分、傷病者

戦死、爆撃機に依り右腿部切断

死亡場所

ルソン島クラーク空軍基地飛行場

死亡状況

死亡確認有、関係

比島派遣軍司令部より報告あり

死亡前後、状況

昭和二十年一月六日午前八時三十分頃敵機爆撃あり

8-12

今遺骨及遺物於其處

二子 純命 以 命 於 天 大 難 不 入

道實八歸一集九月十日部隊（現地）三覽

靈祭之執行，上部應予保留。

遺留品
ナレ

凡七、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

商
林
十
事
証
明
スル

昭和二十二年二月二十五日

元比無派遺軍威亦一二二部防

現任

旧職等以名
陸軍上等兵

不文者，亦一類

死 亡 者 認 證 明 書

所属部隊名	官等級氏名	本籍地	死亡年月日	死亡区分	死亡場所	傷病名	遺体発見状況	現認事由	証明年月日	所属部隊名	官等級氏名	現任所	記載上の注意
陸軍第1師団	佐々木 健一	新潟県	昭和17年10月	戦死	中国戦場	戦死	遺体発見	戦死	昭和17年10月	陸軍第1師団	佐々木 健一	現任所	記載上の注意

死亡者調査書

昭和十三年四月廿日調査

姓名	生年	死年	死月	死日	死因	死場所	埋葬場所	備考
田中 一郎	1880	1933	4	20	肺炎	自宅	田中家墓	
山田 太郎	1885	1933	5	10	胃癌	病院	山田家墓	
佐藤 三郎	1890	1933	6	15	心臓病	自宅	佐藤家墓	
鈴木 次郎	1895	1933	7	25	糖尿病	病院	鈴木家墓	
高橋 五郎	1900	1933	8	10	肺炎	自宅	高橋家墓	
渡辺 一郎	1905	1933	9	20	胃癌	病院	渡辺家墓	
中村 三郎	1910	1933	10	15	心臓病	自宅	中村家墓	
金田 次郎	1915	1933	11	25	糖尿病	病院	金田家墓	
佐々木 五郎	1920	1933	12	10	肺炎	自宅	佐々木家墓	
山本 一郎	1925	1933	1	20	胃癌	病院	山本家墓	
田村 三郎	1930	1933	2	15	心臓病	自宅	田村家墓	
佐藤 次郎	1935	1933	3	25	糖尿病	病院	佐藤家墓	

状況不明者の資料届

本籍地

所属部隊固有名 建築勤務第三七中隊

通稱号 威第四八二九部隊

上等兵

昭和二十年一月四日午後四時マニラ市出発北部ハシ、町転進
中キニカワ町々々悪性マリアの爲約三日病の床に轉死す
遺骨遺留品不明

認定事由 所属部隊小隊分隊班同し

鉄五四五二部隊

伍長

現認証

本籍地

部隊名 第十航空情報隊

官等氏名 當時陸軍少長

死亡年月日 昭和二十年八月八日

死亡場所 比島バスターイロイロ市陸軍病院

死亡区分 五性三リヤ

死亡原因 肺炎

右現認

本籍地

部隊名 第九航空情報隊

官等氏名 陸軍少長

死亡事實(現証)證明書

本地

現住所

所屬部隊

野龍矢第 八 卷 終

毀集年

氏官第級

4. Staphylococcus aureus



有、著昭和二十年一月初旬日 時

分_三島_三京_三二_三於_三釋_三林_三微_三崇_三年_三依_三戰_三傷_三

弗タルコトヲ證明（現認）ス

昭和十年 九月十九日

所願弗遂

職名 野能良方(將家)

世辨疑

修叔

姓名

注意

- 一、戦名入中、小隊長、砲手、操縦手等ト詳記ス

- 一、職名入中、小隊長、砲手、操縱手等ノ辭記ヲ

42-11

地方世話部

大川敬

50-10



監製年八月日

部隊

通稱號泉五五

死亡場所

オモツク中

甲.

2000

曹長

死
區
命

戰死

牢

2

受傷箇所

頭部貫切 迫要彈破片創

晉書

7

[illegible]

死せり
アルモツノ山岳地帯の戦いに於て、迫撃砲破片にて頭部貫通、即

由理記現

龍虎の戦記

一現職事は當時の情状、等級に記す
一本謙明書は三部作なり
一階級は必ず死亡前に記入す
一死亡区分戰死の時は受傷箇所と戰病死の
時は病名發病年月日を記入す
一死亡場所死亡年月日、死亡区分の確度正
確なる時は甲、概ね確實なる時は乙、
疑はしい時は丙と其の下に記入する

查 明 證

元所屬部隊 泉五三二△

本籍地

現住所

階級氏名

共長

印

氏名の下に必ず印を押すこと

死亡者調査表

昭和二十一年十一月五日

姓名 高野 長五郎
 生年月日 昭和十一年一月五日
 死亡年月日 昭和二十一年十一月五日
 死亡場所 自宅
 死亡原因 肺炎
 医師 山田 太郎
 葬式 火葬
 葬場 市営斎場

住所 東京都中央区

死亡時間 午後五時

死亡場所 自宅

死亡原因 肺炎

医師 山田 太郎

葬式 火葬

葬場 市営斎場

備考

本表は中絶の類以外に第一世に限りて記載するものと
 記載上の注意並に調査票は裏面にあり
 不備事項中判明したもの各五に於て未詳とする

氏現本 氏現 佐所地認 證明書

[Redacted]

右同一

昭和二年 月 日生

10-10

所屬部隊 陸軍一七七六部隊

階級 陸軍一等兵

徵集情報 昭和十八年徵集 現役 步兵

死亡年月日 昭和二十一年一月十日

死亡場所 ルンニラニニ河バヤ

死亡区分 戦死

死因 患中風病 死 年月日

現住所

右者方河原 昭和二十一年一月十日 八千六百

入院 遺書 戦死

遺骨の有無 十二

遺族現住所 氏名

[Redacted]

右相違無事之證明書

現住所 官守 氏名 印 氏名

現住所 部隊 陸軍一七七六部隊

昭和二十一年 十月 二日

死没証明書

25-10

所屬部隊

旭第二二部隊

官 等

陸軍一等兵

氏 名

[Redacted]

本籍地

[Redacted]

留守地番番

[Redacted]

死没年月日

昭和十二年一月十日

同 場 所

赤口高地

同 証 分

歿 死

死没事由

昭和十二年一月六日敵機二機以上七陸赤口高地死す命

同 証 過

定小意戦中船砲直撃彈受小戦死其由分隊長

(長年勤勞)

[Redacted] 長年勤勞 [Redacted] 長年勤勞

激戦多量死傷留品中し

右証明致す

昭和十二年二月二十日

証明者

本籍地

[Redacted]

所屬部隊 旭第二二部隊

官 等 陸軍一等兵

氏 名

[Redacted]

説明書

陸軍軍属

右者比島マニラ市に於て、薬業に従事し、昭和十九年十二月
八日臨時水上周旋勤務隊に軍属として採用され、昭和十九年
十二月ニシテマニラ出張後、サマタラ、ホツク港、カマ
オ等へ於て警備に従事し、その後、クリタ方面へ向つて航行中、
昭和二十年一月十二日、一時、敵の空襲に遭ひ、頭部を
通銃創により、戦死せることを証明す
昭和二十年八月二十五日

元臨時水上周旋勤務隊長

陸軍大尉

事實(現認)證明書

所屬部隊

固有部隊名 ストラ八九隊航空隊

通稱

號名 翔一六五〇ニ部隊

官等級氏名(死亡前)

陸軍上等兵

本籍地

現住所

右ノ者昭和二十年

一月十一日十五時五分

比島リン島北部バヤコラ

ニ於テ

死シタルコトヲ證明ス

昭和二十年一月二十九日

固有部隊名 ストラ八九隊航空隊

通稱

號名 翔一六五〇ニ部隊

本籍地

官等級氏名印

陸軍兵長

昭和十九年十月二十七日 中部艦隊司令部 第六部隊長 ストラーク 九隊艦隊司令部 員ニテ居ル。

同年 十月六日 ストラーク 九隊艦隊司令部 第六部隊長 [redacted] 九隊三小隊三小隊長 務め。

" " " 十月六日 旅支司令部 務め。

" " " 十月六日 台湾高橋港ニ寄港。

" " " 十月六日 牛前 [redacted] コレドール 他近 [redacted] 連動約 (共同除漂法後 所用青木北ニ連動スル。

昭和十九年十一月一日 フイリビニマラ港ニ居。

" " " 十一月五日 マラカド航空燃料補給廠ニ勤ム。

昭和二十年一月一日 佐世コトラノ東部 [redacted] 九隊隊長以下九名先発分メ

九隊司令官北マニエルニト着。

" " 一月六日 天明 陸砲隊 依リ七部 [redacted] ババヨウノ一轉進。

昭和二十年一月十一日

此部 [redacted] ババヨウノ西方四〇〇ノ地点ニ於テ米比軍ト交戦
約二時間オシ小隊長 軍法 分隊長 戦死 後八隊八四分五利シ
現地脱出ス

表野道山中 [redacted] 新道中 [redacted] 軍ニ会ヒテ [redacted] 度戦
シ [redacted] 八勇敵ニ会戦ス [redacted] 戦ガ方不利ト見テ [redacted] 全隊 [redacted] 打退
大タイ部ヲ貫通 [redacted] 止 [redacted] 多量 [redacted] 戦死
時正 昭和二十年一月十一日 午後三時五分

現認證明書

本籍地

現住所 石全

威第二六二四部隊

陸軍伍長

一 死亡年月日

昭和二十年一月十三日午前七時三十分

一 死亡場所

比島ルン島カガン地マダブ部落

一 患性

マダブ

一 死亡五分

病死

一 死亡状況

難行軍食糧不足身体衰弱シ發病シタル藥品不足等ニ依ル

石現認ス

昭和二十年一月二十日

矢野金太郎



4-18

死没証明書

所属部隊 比島派遣隊第五三部隊第三中隊

官 卒 陸軍上等兵

氏 名 [REDACTED]

本籍地 [REDACTED]

証人署名 [REDACTED]

死没年月日 昭和三年三月十三日

同 場 所 シー島 カザボット

同 正 名 黙 死

死没事由 土気天候に於て宿営中腹部に乾弾。破片に

同 経 過 受け、黙死す

備考事項 散骸。為當所遺棄し

右証明致し奉る

昭和三年三月三十日

証明者 本籍地 [REDACTED]

所属部隊 比島派遣隊第五三部隊第三中隊

官 卒 陸軍上等兵

氏 名 [REDACTED]

四三教部

號

戰時死亡者現認ニ關スル件報告

昭和二十一年一月十二日

地方世話部長

留守業務部長殿

歸還軍人ニ依ル首題ノ件左記ノ通り報告ス

追市 本件ハ左記現認者ノ申出ニ依リ調製シタルモノニシテ當部ニ於テハ公報等處理シテアラサルニ付爲念

所屬部隊		死	七	事	由	役種	氏名	本籍地
比島氷遣	昭和	比島	所	戰	死	空	航	兵
第一八八部隊	三三	パイ島	カサヤ	(頭部貫通銃創)		兵	長	右同ジ
軍醫室								

右現認ス右者遺骨、復員時并参任ニ付部ニテ届致シタ

現住所

所屬部隊 比島氷遣 武第一六八部隊

官等級名

陸軍少佐

[illegible]

例由工兵隊第五隊 隊第一中隊 中支隊第一三三中隊	203.1	ルンペン島公ガ ルンペン島公ガ 戦死戦病死	上茅兵兵長 工兵 木村米一	美奈市大町七丁目五 十番市河内橋木三 高木村妙子	美奈市大町七丁目五 十番市河内橋木三 高木村妙子
--------------------------------	-------	-----------------------------	---------------------	--------------------------------	--------------------------------

○ナシ

昭和十九年七月廿八日 此島へ轉進。六ヶ所、中、昭和二十年三月一日午前十一時 戦死。島名、宗島。附近、戦中、戦前、戦後、創、島名、宗島。野戦病院、三、収容、元、昭和二十年五月一日午前五時、合葬、墓、宗島。野戦病院、三、収容、元、昭和二十年五月一日午前五時、合葬、墓、宗島。

[illegible]

現
認者
所屬部以
蓋就建藏第九
印
同
見主
陸軍工務部
印

○P 楠之配載多下才、高確認資料、生果保、詳細記入下才、
病死場所、發病年月日、病名、入院場所、明瞭記載多下才、

死亡事實(現認)證明書

本管地

現住所 五所

所屬部隊 威第百六十九部隊

徵集年 昭和十八年 官等級 陸士上等兵

右ノ者昭和十八年一月十五日二時

一分隊於テ皇軍砲彈依リ戰傷

瘡死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十年三月八日

所屬部隊 威第百六十九部隊

職名 陸軍少佐

官等級 陸軍少佐

氏名

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シアルモノハ詳記ス

一、軍名ハ中、小隊長、砲手、擡銃手等ト詳記ス

7-10

死後証明書

所屬部隊 旭第二二部隊
官 章 陸軍一等兵

氏 名 [Redacted]
本籍地 [Redacted]

陸軍士官学校 [Redacted] 妻 [Redacted]

死後年月日 昭和二十一年一月十五日

同 場 所 六〇高地

同 証 分 隊 九

死 後 事 由 昭和二十一年一月十六日敵上陸六〇高地死守中命にたり

同 証 通 應戦中一月十五日艦砲攻撃撃破され戦死す由

其 後 詳 細 全隊は [Redacted] 兵長を失い同年三月 [Redacted] 兵長が死す

戦 死 為 道 道 道 道 道 道 道

右 証 明 致 し 奉 ず

昭和二十二年二月二十六日

証 明 者 本 籍 地 [Redacted]

所 屬 部 隊 旭 第 二 二 部 隊

官 章 陸 軍 兵 長

氏 名 [Redacted]

現認証明書

戦病死着
所屬部隊

武第一〇六部隊 (独立歩兵百十八大隊)

兵部省
陸軍省
大塚

22.3.10
受付

官代名

陸軍一〇六長

十六日

兵部省
陸軍省
大塚

死亡年月日

昭和三年一月十六日

十六日

兵部省
陸軍省
大塚

傷病名

頭部及腹部貫通銃創

十六日

兵部省
陸軍省
大塚

場所

比島北部

アブラ洲

兵部省
陸軍省
大塚

死亡時状況

中米軍軍。襲撃を受け、三教名中二名生存、損害を受け、遺骨及び遺留品を遺棄し、直ちに死す。土葬す。

十六日

兵部省
陸軍省
大塚

昭和三年三月七日

現認者現任

氏名

所屬部隊 武第一〇六部隊 (独立歩兵百十八大隊)

印

元陸軍少将

印

地方自治部長殿

昭和二十二年 月 日

地方世話部 死亡者 調査票

昭和二十二年 月 日 防 自調製

所屬部隊名 固有番号 南方才士陸病 通稱名

本籍地

年果徴 昭 18 現 種 役

種 兵 衛生

級等官 前亡死

後亡死

名 氏

人

死亡年月日時 昭 20 1 16 12 死 亡 區 分

死 亡 區 分 戦 死

死亡場所 比島山と島サレオ也 傷者名 全身 爆弾破片創

現 住 所 同本籍地

留 守

者 當

籍 地

父

氏 名

調 査

定 認

遺骨ハ現地ニ於テ埋葬ス

無シ

資 料

及 資 料

衛生兵長

ノ 手 入

路 經

爆弾テリレ習音日聞ヤ承知セリ

判 決

路 經

南方才士陸病

決 判

路 經

陸軍衛生上等兵

官 給

等 級

級 最

印 檢

認 定

進 級

告 知

記 録

102-31

死亡證明書

昭和 年 月 日

所屬部隊 陸軍省 第 1 航空情報隊 第 1 大隊

本籍地

徵集 和 種 二 國 兵 步兵 下兵

死亡年月日時 昭和 年 月 日 時 分 死場所 比島 呂宋島 日本

死亡原因 戰病死

發病經過 昭和 年 月 日 發病經過

現住所

續柄 妻 氏名

遺留品の有無 遺族承認の有無

所屬部隊 陸軍省 第 1 航空情報隊 第 1 大隊

官等 級 陸軍 兵 長

上陸年月日 昭和 年 月 日 上陸地 加路本 港

現住所

北

島

現認證

第四八〇一部隊

隊長

陸軍衛生部長

昭和二十年一月十七日

爆撃

昭和二十年一月十七日

東京島バギオニ於テ

爆撃死(戦死)

之ルコトヲ現認

昭和二十年三月五日

現認者元北島

隊陸軍衛生部長

氏

現任所

氏

氏

氏

氏

氏

氏

氏

昇平歌

- 右確認（證明）ス

元所屬部隊名

第五卷

15

[REDACTED]

宛
先

地方世話部獻傳係

戦歿者確認(證明)書

第2114号

7-11

- 一、死歿者所屬部隊名(通稱) 戒第153部隊
- 一、徵集年 昭和十五年 役種 予備隊 兵種 騎兵
- 一、官等(死歿前) 伍長 (死歿後)
- 一、氏名 [redacted] 年 月 日生
- 一、死歿場所 [redacted] (マニラ地方)
- 一、死亡區分並ニ事由 親戚の車馬に衝突して死亡したる事
- 一、死歿年月日時 昭和二十年一月八日 8:00 時
- 一、死歿者本籍地留守擔當者 [redacted]

右確認(證明)ス

昭和二十年三月二十日

元所屬部隊名 戒第153部隊

現住所 [redacted]

元官等級 陸軍少佐

氏名印 [redacted]

註 死亡事由、場所ハナルベククソシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニナツタ者ハソノ前後ヲクワシクオ知ラセ下サイ

宛 先 [redacted]

地方世話部 係

現認證明書

本籍地

新尾部隊曉二九四部隊

（前）陸軍上士兵氏名

一死亡年月日時

昭和廿十年七月十八日十一時

分

一死亡場所

北島山ノ一島ノ三ノ北方十里地矣

一死亡区分

戦死

一傷（病）名

ケリヲ敵機腹部に貫通

一死亡當時状況

大現認ス

昭和二十五年一月十八日

現認者

現認

現認者

現認

現認

9-11

死亡事實(現認)証明書

本籍地

現住所 九月

所属部隊

五回五方部

徴集年月

九月

氏名

氏名

有ノ者昭和二十年一月十八日五時

三十分分隊ヲ於テ頭部貫通ニ依リ戦傷死

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十年五月二十日

所属部隊 金太隊 名 命 様 人 三 氏

官等 級 伍 長

氏名

氏名

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シタルモノハ詳記ス

二、職名ハ中、小隊長、班長、班員、班員等ヲ詳記ス

18-10

現認證明書

本籍地

所屬部隊 官氏名 陸軍 死亡後 上長

役種 兵種 年次 現 野戰重砲兵 昭和七年一月二十日

死亡年月日時 昭和七年一月二十日 午前十一時

同場 所 比叻北部山嶺 廿三

同 分 戦死 甲

一 死事由 又 病名 及 戦死 即死

遺骨の有無 無

遺族の現住所 有

昭和七年三月五日

現認者

本籍地 階級氏名

任

死亡者履歴	年月日	記	事
昭和七年	一月二十日	午前十一時	戦死
昭和七年	一月二十日	午前十一時	戦死
昭和七年	一月二十日	午前十一時	戦死
昭和七年	一月二十日	午前十一時	戦死
昭和七年	一月二十日	午前十一時	戦死
昭和七年	一月二十日	午前十一時	戦死
昭和七年	一月二十日	午前十一時	戦死
昭和七年	一月二十日	午前十一時	戦死
昭和七年	一月二十日	午前十一時	戦死
昭和七年	一月二十日	午前十一時	戦死

145-11

現認證明書

本籍地
所屬部隊

官氏名 陸軍 死亡前上中兵 死亡後

一役種 兵種 年次 役後 野砲兵 昭元 年 月 日生

一死亡年月日時 昭和三年一月一日(推定)

一同 場所 北島北郊第... 戦死

一同 原因 戦死

一遺骨の有無 無し

一遺族の現住所

右相違無キコトヲ證明ス

昭和三年三月四日

現認者

本籍地 所屬部隊 階級氏名

伍長

死亡有無履歴	
年月日	事由
昭和三年八月二十日	戦死
昭和九年四月	下関方面
昭和十三年三月	上陸
昭和十八年八月	原野

185-11

本籍地
所屬部隊

官氏必陸軍死亡前
死亡後一軍兵

一復種兵種年次現
一死亡年月日時昭和三十二年一月一日

同同
區場
分所
我北
死ル
乙息
テ
エ
ニ
ル

死七事由又六病名及
現說事由(發病年月)
貴胄乃有

遺族の現住所
續柄氏名

右相違無中不證明

昭和三年三月四日

現認者

三、一、

現認者
本籍地
所屬部隊
階級氏名

現認者
所屬部隊
階級氏名
檢
切記與否
詳略
并
立
方
格
者
九
其
均
紙
張
重
三
百
五
十
張

年	月	日	死七者	履歷
一	二	三	四	五
六	七	八	九	十
十一	十二	十三	十四	十五
十六	十七	十八	十九	二十
二十一	二十二	二十三	二十四	二十五
二十六	二十七	二十八	二十九	三十
三十一	三十二	三十三	三十四	三十五
三十六	三十七	三十八	三十九	四十
四十一	四十二	四十三	四十四	四十五
四十六	四十七	四十八	四十九	五十
五十一	五十二	五十三	五十四	五十五
五十六	五十七	五十八	五十九	六十
六十一	六十二	六十三	六十四	六十五
六十六	六十七	六十八	六十九	七十
七十一	七十二	七十三	七十四	七十五
七十六	七十七	七十八	七十九	八十
八十一	八十二	八十三	八十四	八十五
八十六	八十七	八十八	八十九	九十
九十一	九十二	九十三	九十四	九十五
九十六	九十七	九十八	九十九	一百

現認證明書

本籍地

所屬部隊

(通称)

徴集年

(昭和三十三年)

氏名

陸軍上等兵

死亡年月日

昭和三十年

一月二十日

死亡場所

中前ルン島

飛行場南ラウ山ニテ口内地点

死亡区分(傷病名)

死亡状況(昭和三十一年一月二十日) 頭部ニ破入とあり死

台正に現認し證明する

昭和三十三年三月五日

現認者(所屬部隊通称)

現住所

旧職官等級氏名(陸軍上等兵)

(戦三三三三部隊)

官

陸軍

現認(事實)証明書

本籍

部隊名 臨時勤務指揮班() 二等兵

一死之年月日 昭和三年一月三日

一死之場所 比島サンフレランド

一死之正分 戦死

一當時ノ状況 ケリラ、進出が積極的トテタル為當部隊、一回、討

伐ニ方々ク 部落焼打、為 部落、火ヲ藏放ツルヲ 格闘銃、一着射

撃ニ合腹部貫通之死ニ最後ナリ

右之通証明ス

昭和三年一月三十日

元歩五四大隊 陸軍上等兵

印

現認（死亡）証明書

昭和 年 月 日
地方世話部

所属部隊 固有姓名 船泊工兵第三四聯隊 通稱 曉美一三七四部隊

年集 役 兵 級等官 前亡死 後亡死 名 氏 生年月日

死亡年月日時 昭和 20 年 / 月 22 日 午後 時 分 死亡場所 マララ市

死亡区分 戦死 傷病名

發(受)病(傷)年月日 昭和 年 月 日 准士官以上 任官年月日

死亡時 昭和 20 年 1 月 21 日 敵マララ市侵 入の際特別斬込 戦死

遺品 遺骨 の有無

右證明候也

昭和 23 年 5 月 12 日

所屬部隊 船泊工兵第三四聯隊 現住所 陸軍支隊

地方世話部長

殿

56-10

戦況不明資料属

本籍地

新原部隊 固有名無実者五名以上四六隊

通稱名威才一七六六二部隊

兵長

部隊

隊中二小隊才一今隊長としてリンガエ湾附近

の戦斗に参加中一月二十二日午前九時胸部貫通銃創にて戦

死す 遺骨 貴重品なし

威才一七六六二部隊

河内縣志

石確議す

昭和五年十一月

舊所屬部隊
南方第十二
陸軍病院
感第。六。二
部隊

舊宮等々
死之者との關係

現
注
所

						圖有通稿		新州屬	
昭十一						兵種		任官年	
死後						級		等	
名						(日)		月	
現住所						同不籍地		管守警當者	
年月日						場所		事由	
傷病名						傷病名		傷病名	
遺留品						遺留品		遺留品	

死

東郷 龍一
飛行第七十四隊
官軍 戦死

飛行第七十四隊

死 七年 月 日 昭和二十年一月二十四日

死 亡 場所 島呂宋グラーフ飛行場一谷

死 亡 理由 砲弾一發片ハラ部モウカレ

死 亡 理由 砲弾一發片ハラ部モウカレ

名 現

飛行第七十四隊



49-12

死
亡
現
認
證
明
書

[illegible]

車載上り注意

不近則苦。近則怨。小人處此。則怨。怨則憂。憂則死。此其所以爲小人者也。小人處此。則怨。怨則憂。憂則死。此其所以爲小人者也。

死亡現認證明書

[illegible]

集 證

死亡證明書

姓名	陳一七
通稱	陳一六三
生年	子山 號 上 年 兵
籍地	[Redacted]
曾居	現居所 本籍地 同
遺囑	妻 [Redacted]
死亡年月日時	昭和二十一年二月五日 午後九時
死亡場所	三十七番 右側 砂 地
死之區分	戰死
死之經過	右軍 隊 方 被 捕 後 於 某 處 被 殺 害 腹部 有 傷 痕 刻 有 某 軍 兵 國 隊 隊 長 院 入 院 後 戰 死
由	
遺體	
遺物	
遺言	
遺狀	

在證明後し事

昭和二十一年二月五日

證明者 本籍地

現居所

所有關係氏名 遺體 第三 三 部 別

安 事 產 軍 大 隊

死亡者生前之相手

關係氏名

氏 名

現認證明書

本籍地

現住所

所屬部隊

官氏名

死亡場所

死亡區分

死亡日時

死亡傷(病)名

留守擔當者住所

續柄氏名

右證明する



昭和二十二年四月十五日

現認者住所

元所屬官氏名 比島 渡辺 重振 大佐 集本園

陸軍衛生部

兵團臨時司令部 大隊方中隊附

右同

比島 渡辺 重振 大佐 集本園

兵團臨時司令部 大隊方中隊

歩兵(等兵)(死亡前)

比島 マリキナ元 大隊司令部 於

戦死

昭和二十年一月十五日

赤痢

[Redacted signature area]

[Redacted signature area]

寫

現認(事實)證明書

本籍地

所屬部隊 固有名姓

役年

役種

兵種

官等級

昭和

年

月

日發令氏名

年

月

日生

一、死亡年月日時分 昭和 年 月 日 時 分

二、死亡原因及傷病名

三、死亡場所

四、死亡状況

五、遺物及貴重品の有無

並に遺書(状況)

六、死亡に関する書類の有無

右の通り相違ない事を証明する

昭和 年 月 日 元所屬部隊(固有名)

(通稱名)

現住所

再婚官等氏名

一、死亡者本籍地

二、遺失者

住所氏名

右の通り相違ないことを証明する

昭和 年 月 日

縣 市 町 村

市 町 村 長

面

現認證明書

比島派遣第一二二部隊

隊

陸軍上等兵

右者昭和三年一月三日ルン島北部山中ニ於テ

マウリヤニ依リ戦死(戦病死)ニシテ現認ス

昭和二年八月五日

現認者元旭第一二部隊 陸軍 階級 兵長

現在所

氏名

印

死亡證明書

所屬部隊名	官等級氏名	本籍地	死亡年月日	死亡区介	死亡場所	傷病名	遺体遺品の状況	現認事由	證明年月日	所屬部隊名	官等級氏名	現住所	記載上の注意
...	...	...	...	...	...	...	...	...	昭和...	...	...	...	本證明書は三項の事實を記載する。死亡の事實は、...

91-3

258

5

259



通稱名

通稱名

步兵第六中隊

第三大隊第十中隊

聯隊長

中隊長

右、者

小生過日千葉留守業務局ニ出頭残務整理ノ際當時中隊長

昭和二十年一月二十八日戦死ナル

戦死場所北部呂宋島コウシテイ州バヨバン地区

右大腿部右上腰骨折断弾破片創

右ハ小生負傷當時見シ事ヲ實證ス

元歩兵第六中隊第六隊救護班

(印)

死亡者所屬部隊名	間有名	死亡現狀	證明書
徵集年役種兵種	徵集年	死亡前	死亡後
官	死亡前	死亡後	兵種
死亡區分	死亡場所	死亡年月日時	死亡年月日時
死亡年月日時	昭和20年1月28日	死亡場所	死亡場所
死亡原因	全身爆弾創傷	死亡原因	死亡原因
死亡者本籍地	長野県	死亡者本籍地	長野県
守備隊	守備隊	守備隊	守備隊
右現狀	右現狀	右現狀	右現狀
昭和20年5月21日	昭和20年5月21日	昭和20年5月21日	昭和20年5月21日
元所屬部隊	元所屬部隊	元所屬部隊	元所屬部隊
現住所	現住所	現住所	現住所
氏名	氏名	氏名	氏名

16-10

[illegible]

昭和
年
月
日

現住所

所屬部隊
陸大西
部隊
陸大西

官等級氏名 船中工兵薩摩英機

上陸地名、
名古屋港

上陸地支局に於て、運轉費や否や

10

（五）入院年月日入院病院名及其の他診療資料等

土地支那、留守兵隊入のこと

100

日	記	事
---	---	---

動務の概況	表四
-------	----

上丁函誦述二成儀

中承傳

[illegible]

100

623

[illegible]

一、所屬部隊は通稱同志部隊名をも判明程度に記入のこと
 二、死亡者は山本等本隊員群衆に特に要山、傷、病等、發病（受傷）入院年月日入院病院名及其の他治療資料條件を記入のこと、記事多き場合は用通稱併記入のこと
 三、遺骨（遺品）欄は存無有る場合は何處におりや（現地、土埋地支局、留守宅等記入のこと）
 四、指印を忘れぬこと
 五、同一人に對し二捺指印のこと

[REDACTED]

氏 名

年 月 日生

派員

第 210 部隊

眼 障

年任官選昭和 年 月 日

離武於字部月廿九日未時頃之六分二厘方四釐地

現銀

此

砲臺我打至本月廿九日之三加二面方始回地。兵二亦于城內肉於之兒无。
卜干腹部會通創三寸餘深可五分。近來醫藥平素未了者三接近之兒

由腹部

發病年月日 昭和 年 月 日

(一) 趙武王 孫 孫

又、不附錄整理班、

中立簽すべし陸年月日及上陸地

戰死者下、額柄 毒母

氏 名

右ノ通り戰死セラレタルコトヲ證明候也

昭和武城元年 六月十九日

· 證明者住所

戰死者と關係

所屬部隊名

地鉄製造 東京 1210 新陽

兵種野 官等級：陸軍 江 久

氏 名

市町村長證明箇所

戦歿者確認(證明)書

南九段陸橋

一、死歿者所属部隊名(通稱)

第一〇二〇部隊

二、戦災年(昭和十三年)

役種 第一補充兵 衛生兵

三、官位(死後) 無

(死後) 司令

一、氏名

二、死歿場所

比島(大前山島)バギオ市

三、死亡区分(二) 由

爆死 (敵機炸弾被弾、燃道中)

四、死歿年月日時

昭和十一年一月二十一日 九時五分

五、死歿者本籍地留守担当者

有確認(證明)ス

昭和十一年三月一日

元所属部隊名

獨立混成第百一十旅団司令部

現住所

比島バギオ市

元官位

兵衛上等兵

氏名印

註 死亡事由、場所ハナルベクシテ、終戦後、死亡ハ明確ニ生死不明ニナツタ者ハソノ前後ヲ

クワシク知ラセ下サイ

宛 先

地方世話部 関係係

昭和二十一年 月 日 公第

地方世話部 死亡者 認定票

昭和二十一年 月 日 副署
留守 業務 課

決 判	路親手入ノ料式及料資	定額	守者當	留擔	人	本
所屬部隊名 固有姓名	本籍地	年集徴 昭五 種役 兵 衛生 級第官 前亡死 上軍兵 後亡死	死亡年月日時 昭和二十一年 月 日	死亡區分 戦死 死死場所 ルン島バヨンボ	現住所 [Redacted]	通稱名 [Redacted]
官階 伍長	官位 [Redacted]	官給 [Redacted]	官給 [Redacted]	官給 [Redacted]	官給 [Redacted]	官給 [Redacted]
印 檢 点	認定	進級	告知	記録	名簿所見 [Redacted]	名簿所見 [Redacted]
					ス歳記 ス七管保 ス消抹 シ消抹	毎年名簿頁 [Redacted]

11-07

年 月 日生

七、戰死當時、狀況、概要 別紙 頁 11

發病年月日 昭和 年 月 日

九、其他 (上陸地、於死亡者遺骨、申立カ、部隊遺棄、又、部隊遺棄、申立カ、申立カ、上陸年月日、上陸地、不調)

出 如左

右ノ通リ戰死セラレタルコトヲ證明候也

昭和五年一月三十日

戰死者下ノ關係 國書院藏 日本書院藏 日本書院藏

所屬部隊名 陸島派遣隊 第一〇九四部隊 單車中 杉隊本部

兵種 步兵 官等級 陸軍兵長

氏 名

5th July

市町村長證明箇所

[illegible]

